

平成21年3月

伊澤幸洋 学位論文審査要旨

主査	中込和幸
副主査	浦上克哉
同	大浜栄作

主論文

Wechsler adult intelligence scale, 3rd edition (WAIS-III): usefulness in the early detection of Alzheimer's disease

(ウェクスラー成人知能検査第三版のアルツハイマー病早期診断における有用性)

(著者：伊澤幸洋、浦上克哉、小嶋知幸、大浜栄作)

平成21年 Yonago Acta medica 52巻 11頁～20頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究はアルツハイマー病患者を対象として日本版ウェクスラー成人知能検査第三版（JWAIS-III）を実施し、検査の有用性について検討したものである。その結果、検査適用年齢拡大の意義が明らかにされ、その妥当性の高い尺度を用いることでアルツハイマー病患者の知能特性として抽象的言語思考力と問題解決的思考力の低下が推定された。さらに、早期診断として、注意やエピソード記憶の関与が想定される下位検査「符号」とその補助問題である「対再生」を用いた評価法の有用性が示唆された。本論文の内容は、神経心理学を含む脳神経医学の分野で、JWAIS-IIIによるアルツハイマー病のスクリーニング法の有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。